

・・・評価をH29から変えた項目

中期計画の項目	No.	第1期中期目標期間					第2期 (H31まで)			H30 評価	評価理由			
		H22 評価	H23 評価	H24 評価	H25 評価	H26 評価	H27 評価	H28 評価	H29 評価					
		<p>県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</p>												
1 医療の提供	(1) 政策医療の提供	ア 救命救急医療	1	A	A	S	S	S	S	S	S	S	高度救命救急センターに指定 (H31年4月・広範囲熱傷、指肢切断、急性中毒等)、ドクターヘリの適切な運航 (出勤件数は過去最多、再出勤までの時間14分→5分に約9分短縮)、総合診療科では専門性の高い医療の提供 (延べ外来患者数は過去最多) →総合的に特に優れており前年度同様「S」	
		イ 総合周産期母子医療	2	A	A	A	A	A	A	S	S	S	M F I C U 延べ入院患者数は過去最多、新生児救急搬送受入件数は過去最多、胎児超音波スクリーニング検査数は過去最多、産婦検診の検査者数は過去最多 (対象を4市町から全市町村に拡大) →総合的に特に優れており前年度同様「S」	
		ウ がん医療	3	A	A	A	A	S	S	S	S	S	専門的ながん医療の提供 (手術、化学療法及び放射線療法の効果的な組み合わせ、内科系と外科系の連携等)、ゲノム解析件数は大幅増で過去最多 (検査の迅速化)、先進医療「遺伝子パネル検査」実施医療機関に指定 (H31年2月)、低侵襲性手術支援ロボットの活用 (手術件数の増、対象部位の拡大)、通院加療がんセンター患者数は過去最多 (新薬による治療拡大等) →総合的に特に優れており前年度同様「S」	
		エ 難病 (特定疾患) 医療	4	B	B	B	B	B	B	B	B	B		
		オ エイズ医療	5	B	B	B	B	B	B	B	B	B		
		カ 感染症医療	6	B	B	B	A→B	A	A	A	A	A	一類感染症病床の確保、結核患者の受入 (延べ入院患者数は2期最多)、陰圧個室入院治療患者は過去最多、感染症専門医による専門的な医療の提供 (他院受診の感染症疑い患者にも)、渡航・ワクチン外来延べ受診者数は過去最多→積極的に取り組んでおり前年度同様「A」	
		ア 精神科救急・急性期医療	7	B	B	B	A	S	S	S	S	S	精神科救急医療体制の24時間化に対応 (H27以降)、総合的で一貫した医療の提供 (治療、退院促進、退院後リハ)、精神科救急受入患者数は過去最多→総合的に特に優れており前年度同様「S」	
		イ 児童思春期精神科医療	8	B	B	B	A	A	A	S	S	S	高度で専門的な診療の実施 (常勤専門医2名、10対1看護、専任の精神保健福祉士等)、延べ入院患者数は過去最多 (H30年12月に20床→23床へ増床)、延べ外来患者数は過去最多、ショートケア参加者数は2期最多→総合的に特に優れており前年度同様「S」	
		ウ 心神喪失者等医療観察法に基づく医療	9	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	多職種治療チームによる治療体制・通院患者支援体制の継続→優れており前年度同様「A」
		エ 重度・慢性入院患者への医療	10						B	A	A	A	クロザピンによる治療患者数は過去最多 (人口10万人当たり使用患者数は全国上位)、クロザピン副作用モニタリングシステムの提案→積極的に取り組んでおり前年度同様「A」	
		オ 重症通院患者への医療	11						B	A	A	A	多職種治療チームによる適切な医療の提供 (症状・生活の変化等を随時把握し速やかに診療及び生活支援する仕組み)、重症通院患者支援推進会議の実施、訪問看護ステーションの開所 (H31年4月)、デイケア新治療プログラムの検討 (H30より) →積極的に取り組んでおり前年度同様「A」	
	(2) 質の高い医療の提供	①医療従事者の育成、確保及び定着	12	A	A	S	S	S	S	S	S	S	優れた専門医の採用 (H31:胃がん手術、胸部ステントグラフト内挿術)、総合研修プログラムマッチの率100% (H31:17名)、新専門医制度に係る専攻医の採用 (H31:14名)、外科専門研修プログラム (H30作成・H31開始) →総合的に特に優れており前年度同様「S」	
		②7対1看護体制への柔軟な対応	13	B	A	A	A	A	A	S	S	S	7対1看護体制の継続、看護師総数・新規採用者数は過去最多、看護師確保対策の強化 (H30より専従2名)、離職率の低さは過去最低タイ、病棟と外来の一元化により継続看護の充実・人材有効活用 (H30より産科・整形外科・形成外科) →総合的に特に優れており前年度同様「S」	
		③医療の標準化と最適な医療の提供 (イ 診断群分類包括評価 (DPC) の導入) 14に統合	14	B	B	B	B	B	S	S	S	S	DPC特定病院群の地位を維持、平均在院日数は過去最短 (内視鏡下手術件数は過去最多)、無菌室の増床 (H30年8月に2床→9床)、精神科身体合併症病棟の整備着手 (H31年3月)、病院機能評価受賞 (H31年2月) →総合的に特に優れており前年度同様「S」	
		④高度医療機器の計画的な更新・整備	15	B	B	B	B	A	S	A	A	A	器械備品委員会による審査、全自動遺伝子解析装置「FilmArray」を全国に先駆けて導入 (H30) →積極的に取り組んでおり前年度同様「A」	
		⑤病院施設の計画的な修繕・改善	16						B	B	B	B		
		(3) 県民に信頼される医療の提供	①医療安全対策の推進 (イ 情報の共有化) 17に統合	17	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
	②医療倫理の確立		18	B	B	B	B	B	B	B	B	B		
	③患者・家族との信頼・協力関係の構築		19	B	B	B	B	B	B	A	A	A	インフォームド・コンセントに関するガイドラインの策定及び検討部会の新設 (H30)、保健師・社会福祉士・看護師による巡回指導、在宅への退院支援件数は過去最多タイ→積極的に取り組んでおり前年度同様「A」	
	④医薬品の安心、安全な提供		20	B	B	B	B	A	S	A→B	B→C	B	服薬指導回数は大幅増で過去最多、持参薬管理患者数・鑑別件数は過去最多、通院加療がんセンターでの治療薬説明回数は過去最多、薬剤管理の強化など改善計画を着実に実施→順調に取り組んでおり1ランク上げ「B」	
	⑤患者サービスの向上		21	A	A→B	A→B	A→B	A	A	A	A	A	電話交換手の増員 (H31年4月)、医療コンシェルジュの配置 (看護師長経験者3名・H31年4月)、中央採血室受付・採血業務の前倒し (H30)、患者相談窓口の1階ロビーに設置 (H30年12月)、入退院センター面談室の増設 (H31年3月)、北病院外来診察室の増設 (H30年9月) →積極的に取り組んでおり前年度同様「A」	
	⑥診療情報の適切な管理 (⑥診療支援システムの充実) 22に統合		22	B	B	B	A	A	A	A	A	A	紙外来カルテの管理強化 (H30)、診療録スキャン業務を内製化し (H30) 加算取得 (H31年6月)、電子カルテシステムの更新に向けた検討 (H30より) →積極的に取り組んでおり前年度同様「A」	
	2 医療に関する調査及び研究		23	A	A	A	A	S	S	S	S	S	S	臨床試験管理センターで事務を一元管理、治験等の件数は過去最多、C型肝炎治験で著しい成果 (再発少)、オラパリブ臨床試験 (H30年4月薬価掲載)、県立大学との共同研究、図書室改修 (H30) →総合的に特に優れており前年度同様「S」

業務運営の改善及び効率化並びに財務状況に関する事項	3 医療に関する技術者の研修	(1) 医療従事者の研修の充実	24	B	B	B	B	A	A	A	A
		(2) 県内の医療水準の向上	25	B	B	B	B	B	B	B	A→B
	4 医療に関する地域への支援	(1) 地域医療機関との協力体制の強化	26	B	B	B	B	A	S	S	S
		(2) 地域医療への支援	27	B	B	B	B	B	B	B	B
		(3) 地域社会への協力	28	B	B	B	B	B	A	A	A
5 災害時における医療救護		29	A	B	B	A	A	A	A	A	
業務運営の改善及び効率化並びに財務状況に関する事項	1 医療環境の変化に対応できる運営体制の構築		30	A	A	A	A	A	A	A	A
	2 効率的な業務運営の実現		31	B	B	B	B	B	B	B	A
	3 経営基盤を安定化するための収入の確保、費用の節減		32	A	B	B	A→B	A	S	S	S
	4 事務部門の専門性の向上		33	B	B	B	A→B	A	A	A	A
	5 職員の経営参画意識の向上		34	A	A	A	A	A	A	A	A
	6 職場環境の整備		35	B	B	B	B	B	A	A	A
	7 予算、収支計画、資金計画、短期借入金の限度額		36	S	S	S	S→A	S	S	S	S
その他業務運営に関する事項	1 保健医療行政への協力		37	B	B	B	B	A	S	S	S
	2 法令・社会規範の遵守		38	B	B	B	B	B	B	B	B
	3 積極的な情報公開		39	B	B	B	B	B	B	B	A→B
	4 山梨県地方独立行政法人の業務運営並びに財務及び会計に関する規則で定める事項（施設及び設備に関する計画、人事に関する計画、積立金の処分に関する計画）		40	B	B	B	A	A	A	A	S→A

A	新専門医制度に係る専攻医の採用（H31:14名）、外科専門研修プログラム（H30作成・H31開始）、指導医招へい、研究研修予算の増額（学会等での受賞）、医療ガス研修会の開催（H30）→積極的に取り組んでおり前年同様「A」
B	
S	診療情報提供書（情報添付あり）は過去最多、地域医療支援病院指定後も紹介率・逆紹介率が向上し過去最高、入退院支援・地地域連携業務に専従する正規職員を採用し「入退院支援加算1」を取得（H30年9月）、連携登録医向け研修会の開催→総合的に特に優れており前年度同様「S」
B	
A	救急救命士の各種実習（受講人数は過去最多）、看護師養成機関への講師派遣（回数は過去最多）、捜査機関等からの調査に協力→積極的に取り組んでおり前年度同様「A」
A	相互支援協定に基づく情報共有や災害対応検討（H30より）、DPAT派遣協定に基づく隊員の研修参加（H30より）、大規模災害時対応訓練の実施、DMATの確保→積極的に取り組んでおり前年度同様「A」
A	病院会議等を通じた病院全体の情報交換・共通認識の醸成・業務改善の意識付け、ゲノム検査科の新設（H30年4月）、ISO15189（臨床検査）受審準備（H30より）→積極的に取り組んでおり前年度同様「A」
A	医師事務作業補助体制加算（25対1）取得（H30年10月）、保守料を含めたトータル費用による入札の拡大、放射線機器等保守の一括契約による削減（H30より）→積極的に取り組んでおり前年度同様「A」
S	診療材料のベンチマークシステムを活用した経費削減（H30より）、診療材料の共同購入組織加盟による経費削減効果の大幅な向上、後発医薬品の積極的な採用（使用割合及び購入額は過去最高）→総合的に特に優れており前年度同様「S」
A	職種横断的な研修の実施、DPC担当にプロパー職員を配置（H30より2名増の計3名）、日本医療マネジメント学会等全国的な学会へプロパー職員を派遣（H30は日本病院学会で発表）→積極的に取り組んでおり前年度同様「A」
A	病院会議による経営情報の周知、経営分析ソフトによる検証を多職種で活用（薬剤管理指導料の算定率向上）、病院経営に係る職員提案の募集（提案数は2期最多、H30は職員健康管理室の設置を実現）、通年型職員提案制度→積極的に取り組んでおり前年度同様「A」
A	院内託児所利用者数は過去最多、病児・病後児保育延べ利用者数の大幅増、救急科に交代勤務制度を導入（H31年1月）、夏季休暇取得可能時期の拡充（5月～11月）、人事評価制度の運用開始（H30より）→積極的に取り組んでおり前年度同様「A」
S	経常利益は、計画を11億9千2百万円上回る17億4千4百万円を確保→計画を大幅に上回っており前年度同様「S」
S	県の保健医療の重要政策に協力（がん診療連携拠点病院・救命救急センター・総合周産期母子医療センター・難病医療拠点病院等）、二次救急当番日の増（H30年4月）、精神科救急24時間対応、医療法の立ち入り検査協力→総合的に特に優れており前年度同様「S」
B	
B	
S	必要な施設及び設備を整備、職員数は前年度と比べて4.1%増（常勤医師6名増・看護職43名増）、過去最多1,506人となり政策医療の確実な実施や質の高い医療の提供に向け適切な人事管理を実施、人材確保に繋がる新専門医制度に係る専門研修プログラム（H29作成・H30開始）→総合的に特に優れており1ランクアップ「S」

	S	A	B	C	D	計
H22	2	11	27	1	0	41
H23	2	9	30	0	0	41
H24	4	8	29	0	0	41
H25	4	14	23	0	0	41
H26	8	18	15	0	0	41
H27	12	15	13	0	0	40
H28	13	16	11	0	0	40
H29	13	17	9	1	0	40
H30	14	16	10	0	0	40
増減	1	△1	1	△1	0	0

第1期中期目標期間  
↓  
第2期中期目標期間（R1まで）  
↓

評価S…当該事業年度における中期計画の実施状況が特に優れている  
 評価A…当該事業年度における中期計画の実施状況が優れている  
 評価B…当該事業年度における中期計画の実施状況が順調である  
 評価C…当該事業年度における中期計画の実施状況が劣っている  
 評価D…当該事業年度における中期計画の実施状況が著しく劣っており、大幅な改善が必要